

粗悪なジャーナルに関する 8 つの質問とその答え：自身の研究、評判、研究資金を不正な搾取や詐欺被害から守るには

更新日: 2020 年 11 月

ThinkSCIENCE, Inc. | [Publishing](#)

初回掲載: [2015 年 7 月](#)、[Chad Musick, PhD](#)



私たちは、[2015 年 7 月の特集記事](#)で粗悪なジャーナル（predatory journals、ハゲタカ出版とも呼ばれる）が学術コミュニティにとって深刻な脅威となっていることを、また、[2017 年 7 月の特集記事](#)では粗悪な学術集会（predatory

conferences、ハゲタカ学術集会）の問題について取り上げました。その後、学術コミュニティでの認識は次第に高まり、粗悪なジャーナルや学術集会を見分けるためのリソースも増えてきましたが、それでもなお正当なジャーナルや学術集会を確実に選ぶことは簡単ではありません。

今回の特集記事は前回の粗悪なジャーナルについての記事をアップデートしたもので、次の内容が追加されています。



Copyright 2020 © [ThinkSCIENCE, Inc.](#)

This work is licensed under a [Creative Commons Attribution-NoDerivatives 4.0 International License](#).

- 2019 年末に公表された粗悪なジャーナルおよび出版社についての定義
- 粗悪なジャーナルを回避し、名声を汚すことなく研究を守り、研究資金の不正な搾取や詐欺に遭わないためのガイダンス
- 粗悪なジャーナルを疑う目安となる特徴のまとめ

背景

オープンアクセスジャーナルが普及しオンライン出版への移行が進むにつれ、学術出版界には非常に大きな変化が起こっています。かつてないほど多種多様なジャーナルが存在し、著者には論文公表の選択肢が増えるという恩恵がもたらされています。しかしその一方で、ジャーナルの中には学術文献に重大な脅威をもたらす**粗悪なジャーナル**も含まれているため、このようなジャーナルでの公表を回避するという新たな責務も著者は負うことになりました。

今回の特集記事では粗悪なジャーナルとは一体何なのかを、論文の著者である皆さんや ThinkSCIENCE が開催するワークショップ・セミナーの参加者から寄せられた質問にお答えする形で説明します。また、粗悪なジャーナルを**疑う目安となる特徴**や、理解を深めるのに役立つ参考資料へのリンクもご紹介したいと思います。

ここでは、私腹を肥やすことが目的で、研究コミュニティや科学文献の公正性の保守を故意に怠るジャーナルを、「粗悪なジャーナル (predatory journal)」と呼びます。この広く知られた呼び方の他にも、英語では **deceptive**、**pseudo**、**fake**、**illegitimate**、**exploitative**、**unscrupulous**、**scam**、**bogus**、**non-reputable** が使われることもあり、日本語では、「プレダトリージャーナル」「悪徳ジャーナル」「ハゲタカジャーナル」などと呼ばれることもあります。

また、ここでは、粗悪なジャーナルに相対するものとして「正当なジャーナル」という用語を使います。正当なジャーナルとは、研究者にとって貴重なサービスを提供し、し



かるべき基準や出版の倫理規範に従い、科学文献の公正性の保守に貢献するジャーナルです。英語の記事では「reputable」がよく使われますが、その他に、credible、legitimate、non-exploitative などが使われることもあります。

Q1. 粗悪なジャーナルとは何ですか？

粗悪なジャーナルの定義は複数ありお答えするのは難しいのですが、簡単に説明すると、次のようなジャーナルと言えるでしょう：

「粗悪なジャーナルとは、著者を欺き搾取的行為を行うジャーナルである」

この後具体的に見ていくように、「著者を欺き搾取的行為をする」という概念は様々な形態をとるため、どの出版社やジャーナルが搾取的で、どれが搾取的ではないかについては、人によって意見が異なります。しかし、数多くの粗悪なジャーナルが明らかな詐欺にかかわっていることには疑いの余地がありません。

粗悪なジャーナルは、論文を公表するための料金として、通常は原稿出版加工料（article processing charge : APC）を著者から徴収しますが、その対価としてのサービスはなく、正当なジャーナルが行うような標準的なエディトリアルレビュー、査読、その他の倫理規範を遂行しません。粗悪なジャーナルの多くは、料金や出版プロセスについて不透明、正しくない、または紛らわしい記載をしています。

粗悪なジャーナル・出版社についての最新の定義は 2019 年 12 月の [Nature](#) に記載された記事をご覧ください。この包括的な定義は、[3 ラウンドの修正 Delphi 法](#)を用いて 18 の質問項目と 28 の下位質問項目を 12 時間かけて検討したうえで、10 か国、43 名の参加者の合意を得て決定されたものです。



コンセンサス定義：

“Predatory journals and publishers are entities that prioritize self-interest at the expense of scholarship and are characterized by false or misleading information, deviation from best editorial and publication practices, a lack of transparency, and/or the use of aggressive and indiscriminate solicitation practices.”

Grudniewicz et al., *Nature* 576, 210-212 (2019)

「粗悪なジャーナル・出版社は、学問を犠牲にしても自己の利益を優先し、虚偽または紛らわしい情報、編集および出版のベストプラクティスからの逸脱、透明性の欠如、および／または攻撃的で見境の無い勧誘を特徴とするものである。」

(弊社による翻訳)

このように粗悪なジャーナルが明確に定義されると、次に必要となるのは、著者および査読者がどのようにそれらを見分け、回避するかの知識です。

Q2. 良いジャーナルと悪いジャーナルの違いは何でしょうか？

みなさんは、Eメールで論文を投稿するよう招待された（このようなEメールは正当なジャーナル、粗悪なジャーナルのどちらからも送付されます）、または、リジェクトされた論文を投稿するために別のジャーナルを探しているなど、自分を含め周囲の同僚もあまり聞いたことがないジャーナルへの投稿を考えることがあるかもしれません。この場合、粗悪なジャーナルと正当なジャーナルを見分けたうえで投稿先を決定することが重要です。

簡単に言うならば、良いジャーナルは下記に挙げる原則をすべて満たし、悪いジャーナルは満たしません。

- 適正かつ資格者による審査

資格者（専門知識を持つ査読者、編集委員、機関など）による適正な審査のない



Copyright 2020 © [ThinkSCIENCE, Inc.](#)

This work is licensed under a [Creative Commons Attribution-NoDerivatives 4.0 International License](#).

ジャーナルに論文を公表するのであれば、著者自身のウェブサイトやプレプリントサーバ、あるいはごく一般的なジャーナルで論文を発表することと大差ありません。もちろん、全ての研究が査読審査付き専門誌での発表に必ずしも向いているとは限りませんし、解説記事、テキストブック、モノグラフ、説明資料など、その他様々な発表の形態があることも確かですが、これら出版物の目的は学術論文とは異なります。資格者による適切な審査がなされないジャーナルは、学術ジャーナルとは言えません。

- **資格者による独立した編集の監視・監督**

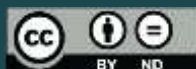
正当な学術ジャーナルは、分野のニーズを受け、その分野で尊敬を集める優れた研究者によって確立されるのが一般的です。ジャーナルはその正当性を示すため、ジャーナル編集委員会のメンバーシップを明確かつ正確に示す必要があります。編集委員会は、ジャーナルに掲載する論文を理解し、評価できるだけの専門性を持つ学者で構成されていなければなりません。学術商業出版社の国際的協会である STM は 学術出版のための国際倫理綱領 の中で、出版社における資格者による独立した編集の監視・監督の原則（正確性と独立性の2つに分類）を謳っています。

- **料金、プロセス、方針の透明性**

正当なジャーナルは、ウェブサイトで、料金、プロセス、方針について明確に包み隠さず表示しており、その内容も最新の研究および公表の倫理規範に沿ったものであるはずです。もしこのような情報が欠けているならば、そのジャーナルが正当であるかを疑い、確認してみた方が良いでしょう。

- **他の正当な学術団体による受け入れ**

正当なジャーナルは、信頼性の高い大規模な学術情報のデータベース、例えば、生物医学分野の Web of Science、Scopus、MEDLINE など、また、オープンアクセスジャーナル・ディレクトリ（Directory of Open Access Journals : DOAJ）、オープンアクセス学術出版協会（Open Access Scholarly Publishers



Association : OASPA)、および出版倫理委員会 (Committee on Publication Ethics : COPE) が提供するリストの中に見つけることができます。これらのデータベースでインデックス化されているということは、品質規範とプロセスの審査に合格したことを意味します。しかしながら、それらに含まれないジャーナルが必ずしも粗悪なジャーナルということにはならず（新しいジャーナルはすぐにはリストに載りません）、逆に、粗悪なジャーナルの論文が広く知られている PubMed Central、Scopus などのレポジトリに紛れ込んでしまった例もあります。ですから、ジャーナルがインデックス化されているかどうかを確かめることは、それが粗悪なジャーナルであるかどうかを見極める 1 ステップに過ぎません。（粗悪なジャーナルを疑う目安となる特徴については Q6 のまとめを参照のこと）

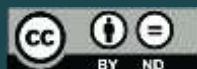
ジャーナルと出版社の責務についての詳細な情報に興味のある方は、COPE のウェブサイトをご覧ください。

Q3. 粗悪なジャーナルはどのようなことを行うのでしょうか？

粗悪なジャーナルは、詐欺的行為を働き、論文の著者を利用しようとします。最も一般的な不正の形態は、過剰な、あるいは、表示のない原稿出版加工料（APC）の請求です。このタイプの手口は、料金に見合うだけの適切な価値を提供することなく、著者の研究資金からお金を搾取しようと企てています。正当な出版社やジャーナルが要求する APC と、粗悪なジャーナルが要求する APC を区別することが重要です（Q6 の「粗悪なジャーナルを疑う目安となる特徴」を参照のこと）。

それでは、何をもって「正当」と「粗悪」を判断するのでしょうか？簡潔に言うならば、それは、質と透明性です。

正当なジャーナルは、Q2 で挙げた 4 つの原則を守り、APC や出版に伴うその他の料金について極めて明確に示しています。



粗悪なジャーナルはこれらの原則を悪用し、ジャーナルの読者数や重要度およびジャーナルの監視体制について虚偽の情報を提供していることがよくあります。特に、紛らわしい自誌の評価指標を示したり、インパクトファクターや編集委員、そして内容について嘘を述べる傾向があります（時には、他のジャーナルから盗用して、正当なジャーナルを装っている場合さえあります）。粗悪なジャーナルの中には、正当なジャーナルとそっくりなウェブサイトを作ったり、同じようなブランディングを展開するなどして、著者が自誌に投稿し掲載料を払うように仕向けるところもあります。このようなタイプの粗悪ジャーナルは、乗っ取り（hijacked）または詐欺師（imposter）ジャーナルとも呼ばれます。

Q4. APC の非表示や過剰請求だけが不正行為でしょうか？

そうではありません。別の不正行為もあります。例えば、知的財産の盗用、詐欺または偽のピアレビュー、本人の了解なく高名な研究者を編集者リストに加える、などの行為を行っているかもしれません。

APC は、他者の努力に乗じて利益を得る最も直接的な方法であるため頻繁に悪用される手段となっていますが、ジャーナルや出版社が著者に対する義務を果たさない場合には、何らかの不正行為が行われていることを疑いましょう。

Q5. 粗悪なジャーナルの問題は頻繁に発生しているのでしょうか？

これは研究者の中でも常に議論されている問題です。粗悪なジャーナルの数は数千にも達し、横行するようになったため、主要な研究費支給団体および機関は、研究者に向けてどのようにして粗悪なジャーナルでの論文掲載と、万が一掲載された場合のペナルティーを回避するかについてアドバイスしています。例えば、最近中国で発表された政策



文書には、粗悪だと見なされたジャーナルに論文を公表した研究者は厳しく罰せられることが明記されています。

私たちの特集記事（2015年7月）では、「Beallのリスト」と呼ばれる粗悪なジャーナルおよび出版社のリストに、671のジャーナルと811の出版社の名前が挙げられていたことが紹介されました。このリストは、粗悪な学術公表が多くみられる分野（オープンアクセス分野）でジャーナルや出版社の追跡調査を行っていたコロラド大学デンバー校のJeffrey Beall助教授が維持していましたが、2017年1月オフラインとなりました。

同年、Cabell's International社は、粗悪なジャーナルがまとめられた「Predatory Reports」と現在呼ばれているリスト（掲載の基準については[ホームページ](#)を参照のこと）と正当なジャーナルがまとめられた「Journalytics」と現在呼ばれているリストの有料閲覧サービスを開始しました。現在、粗悪なジャーナルのリストには 12,000誌以上が含まれています。

Q6. 粗悪なジャーナルまたは出版社を疑う目安となる特徴はありますか？

粗悪なジャーナルや出版社は、科学コミュニティーを標的に詐欺行為を行うために多大な時間と労力を費やし、次から次に新しい方法を考え出します。しかし、それでもいくつかの特徴をチェックすれば、粗悪なジャーナルや出版社を素早く見極めることは可能です。

通常、一つの特徴ではなく、複数の警戒すべき特徴から粗悪なジャーナルの搾取的な性質が示されますが、最終的な判断は、これらの特徴とその他に得られた全ての情報を合



わせた上で、研究者が自ら下さなければなりません。粗悪なジャーナルを疑う目安となる特徴には次のようなものが挙げられます。

- **Cabell's International** 社の「**Predatory Reports**」にジャーナル名があるか
Cabell's International は、60 個の指標を用いて粗悪なジャーナルであるか否かを評価しています。所属機関が購読契約をしておらず、Cabell's 社の「Predatory Reports」のセクション（または正当なジャーナルについての「Journalytics」のセクション）を閲覧できない場合は、以下の特徴がないかを確認すると、判断に役立つでしょう。
- 信頼のおける大規模学術文献データベースでインデックス化されているか
Q2 で述べたように、ジャーナルがインデックス化されているかを確認しましょう。具体的には、Q7 で大規模なデータベースと関連機関が公表しているリストでまず確認すると良いでしょう。
- ジャーナルのウェブサイトにかかれた英語（あるいは該当言語）に多くの間違いはないか
うっかり間違えることは私たちにもよくあることですが、ジャーナルを発行する編集者が、そのジャーナルの発行する言語で上手く書けないとしたら、そのジャーナルを編集する資格がない可能性が高いように思われます。ここで問題にしているのはウェブサイトの言語であり、ジャーナルに掲載されている論文そのものの言語レベルを問題視しているのではないことに注意してください。なぜなら、言語の正確性に厳格なジャーナルもあれば、研究の発想に重点をおき、言語の正確性にはそれほどこだわらないジャーナルもあるからです。
- 高品質の証しとして、国際標準逐次刊行物番号（**International Standard Serial Number: ISSN**）または誤解を招くようなジャーナルの評価指標を掲げていないか
ISSN 加盟国の出版社は全て申請することができ、必須条件を満たせば ISSN を



取得できます。ISSN は単なる識別番号で、品質を示すものではありません。

ISSN の運営機関は、「ISSN は本質的には意味を持たないデジタルコードである ...このコードによって、出版内容の質または妥当性が保証されるものではない」と 表明 しています。また、粗悪なジャーナルの中には、インパクトファクターを偽造したり、正当なジャーナルや出版社は使用しない誤解を招くような評価指標を示すものもあります。

- **ジャーナルのウェブサイトや投稿規定に示されている論文掲載のプロセスや料金の説明が不透明ではないか**

粗悪なジャーナルの中には、論文掲載のプロセスや料金をジャーナルのウェブサイトで説明せず、メールでの投稿を勧誘するだけのずさんなジャーナルもあります。正当なジャーナルのウェブサイトを見ると、論文掲載のプロセスや料金の説明は明確で透明性が高く、そのような説明がない、あるいは逆に、料金についての方針の説明に重点が置かれているようならば、そのジャーナルの目的は質の高い科学研究を公表することではなく、著者から料金を受け取ることであることを示唆します。また、正当なジャーナルは掲載プロセスに実際に必要となる料金を請求しているため、料金を安くして投稿を集めようとする粗悪なジャーナルよりしばしば APC が高くなります。ですから、料金に見合った価値を得ることができるか、という観点で判断することが大切です。

- **編集委員会（editorial board）がよく知られていないメンバーで構成されていないか**

正当なジャーナルは編集委員会の構成メンバーの氏名と所属機関を明示しています。実際にそうなのかが疑われる場合は、直接コンタクトを取ってみると良いでしょう。

- **ジャーナル名、URL、ブランド（ロゴマークなど）が正当なジャーナルと類似していないか**

Q3 で述べたように、正当なジャーナルになりすますことで著者をだまして投稿



に導くものもあります。このようなジャーナルにだまされないためにも、正当性を再度確認した方が良いでしょう。

投稿前にジャーナルが正当なものであるかを [Think. Check. Submit チェックリスト](#) で確かめましょう。

また、AMWA – EMWA – ISMPP Joint Position Statement on Predatory Publishing（粗悪な出版に関する AMWA、EMWA、ISMPP 共同声明）で、[粗悪なジャーナルの 11 の特徴](#) が、これらの団体の科学コミュニティへの啓蒙活動の一環としてまとめられています（この[正式日本語翻訳版](#)は ThinkSCIENCE が手掛けたものです）。

[Cabell's 社の A-Z リスト](#) にも、粗悪なジャーナルを識別するのに役立つ特徴が簡潔にまとめられています。

Q7. 特定のジャーナルに関する情報はどこで入手できますか？

まず、Cabell's 社の「Journalytics」や「Predatory Reports」のセクション（購読の必要あり）、また、Web of Science、Scopus、MEDLINE（生物医学分野の場合）などの大規模なインデックスサービス、[COPE](#)、[DOAJ](#)、および [OASPA](#) などを確認してみると良いでしょう。

また、学術研究の多くにおいてそうであるように、研究仲間やメンターは優れた情報源であり、相談すればセカンドオピニオンを得られる可能性も高いでしょう。所属機関の図書館の司書さんからもアドバイスを得ることができるでしょう（所属機関が Cabell's リストにアクセスできるかを確認することもできるでしょう）。

これらの入手した情報を基に、最終的には自分自身で決断しなければなりません。ジャーナルが今何をしようとしているのか、また、何を成し遂げようとしているのかを常に



意識することにより、粗悪な出版社の手口に乗せられて、投稿させられてしまうような事態は少なくなるでしょう。

Q8. 私の代わりに、ジャーナルを評価してもらうことは可能ですか？

多くの研究者の方々が自身の研究においてベストを尽くすように、私たち ThinkSCIENCE もベストな仕事をする努力を続けています。論文の言語の質を向上させ、あるいは高品質な翻訳を行うことにより、お客様の研究成果をより良いジャーナルに発表できるようお手伝いするだけでなく、様々な方法で研究者の皆様のサポートを行います。ジャーナルや出版社の選択でお困りの場合にはお手伝いしますので、ぜひご相談ください。

まとめ

学術出版は本来、そのシステムに関わる人達の誠実さの上に成り立っています。出版社には自社のジャーナル編集者をサポートする義務があり、ジャーナルには投稿論文を効果的に審査し、著者に情報を明確に伝え、約束したサービスを実行する義務があります。査読者には正当なジャーナルから依頼を受けて適切に査読を行う義務があり、論文著者には倫理的に実行された研究について盗用・剽窃およびその他の倫理要件を犯すことなく作製された研究論文を投稿する義務があります。この中の誰かが倫理に反する行動を取っても、粗悪な出版の問題が発生します。

この特集記事が、読者の皆さま自身が、あるいは、皆さまが指導している学生の方々が出版社やジャーナルを選ぶ際に、何を考慮すべきかを考える契機になればと思います。ThinkSCIENCE は論文出版プロセスの様々な段階のサポートを行っていますので、ジ



ジャーナルや書籍の出版社を選択するにあたって（書籍出版社からの出版依頼に対する対応も含め）サポートが必要な場合には、ご連絡ください。

オンライン版の記事はこちらから

更新日: 2020 年 11 月

初回掲載（PDF 版）: [2015 年 7 月、Chad Musick, PhD](#)



Copyright 2020 © [ThinkSCIENCE, Inc.](#)

This work is licensed under a [Creative Commons Attribution-NoDerivatives 4.0 International License](#).